

社会福祉施設における

安全衛生対策

腰

痛

対

策

・

K

Y

活

動



厚生労働省・都道府県労働局

労働基準監督署

はじめに

わが国の労働災害による死傷者数を産業別にみると、第三次産業の割合が年々増加しています。特に、老人介護分野においては、今後一層の高齢化の進展により介護労働者の増加が見込まれ、労働災害の増加が懸念されています。

このような背景を踏まえ、『社会福祉施設（老人介護施設、保育施設、障害者施設）』を対象に、安全衛生水準の向上と労働災害防止のためにぜひ行っていただきたい腰痛対策と危険予知活動（以下「KY活動」）についてのテキストを作成しました。

■ 腰痛対策

腰痛は、業務上疾病の発生総数のうち6割以上を占めています。特に社会福祉施設では、腰部に過重な負担のかかる作業が多いため、腰痛の発生しやすい状況にあり、予防対策が不可欠です。

厚生労働省は業務上の腰痛対策として、平成6年に「職場における腰痛予防対策指針」を定め、一般的な予防対策のほか、介護作業など腰痛の発生が比較的多いとされる作業について、個別対策を示しています。また、平成21年には、リスクアセスメントの手法を用いて介護作業で腰痛を発生させるリスクを見つけ出し、リスク低減策を講じるためのツールとして、「介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト」を公表しています。

これらを踏まえ、社会福祉施設における腰痛の予防対策を広く実施促進するため、具体的な事例を交えて紹介します。

■ KY活動

社会福祉施設では、安全・安心・快適な生活環境を利用者に提供することを最も重要な責務としています。そのためには、まずサービスを提供する施設職員の安全や健康が保たれていなければなりません。

施設職員の業務は、利用者の生活に密着して、食事・入浴などの生活支援と介助、生活指導など広く多岐に亘りますが、これを限られた人員で対応しているのが実状と思われます。こうした職場環境の中で安全衛生対策を進めるには、施設の運営者、管理者、職員がそれぞれの持ち場・立場の任務と責任を明確にして全員で取り組むことが効果的です。

KY活動は、事故が起こる前に、職員みんなで話し合っ、安全を「先取り」する活動で、製造業などの業界で長年にわたって実践され、災害防止に大きな成果をあげています。

このKY活動を社会福祉施設で実践するための手法を紹介します。

目次

はじめに	2
------	---

目次	3
----	---

I 社会福祉施設における安全衛生対策について 4

第1 社会福祉施設における労働災害の発生状況	4
------------------------	---

第2 労働災害の発生と企業の責任	6
------------------	---

第3 国が定める労働災害防止対策	7
------------------	---

II 腰痛対策 8

第1 働く人の腰痛	8
-----------	---

第2 腰痛の予防対策の進め方	9
----------------	---

第3 作業管理のポイント	11
--------------	----

第4 作業環境管理のポイント	15
----------------	----

第5 健康管理のポイント	16
--------------	----

第6 労働衛生教育のポイント	17
----------------	----

第7 分野別腰痛予防のポイント	18
-----------------	----

第8 腰痛の予防対策取組事例	27
----------------	----

III K Y 活動 40

第1 K Y 活動とは	40
-------------	----

第2 災害はなぜ起こるのか	41
---------------	----

第3 安全衛生をみんなで進めよう	42
------------------	----

第4 K Y 活動を定着させよう	43
------------------	----

第5 K Y T の手法	45
--------------	----